

RELATIONS MAGAZINE!

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌
2024 May vol.15

RELATIONS MAGAZINEバックナンバー

2020年春より発行してきたRELATIONS MAGAZINEのバックナンバーはWEBよりご覧いただけます。紙媒体での送付をご希望の方は、お気軽に事務局までお問合せください。

- Vol.7 “179RELATIONS.net”はどうやってつくられているのか
- Vol.8 持続可能な地域の未来を考えるテキストブックを作成しました!
- Vol.9 【特集】浜益版集落の教科書ができました
- Vol.10 “リレフェス22”オンライン関係人口フェスティバル開催決定!
- Vol.11 オンライン関係人口フェスティバル“リレフェス22”開催しました!
- Vol.12 持続的な北海道に向けた関係人口を活用した次世代育成事業 活動報告書
- Vol.13 地域に関わる若者たちの取組紹介 小さなチームとチャレンジが生まれる場づくり。
- Vol.14 地域に滞在すること。～厚真町長期滞在プログラム参加者より



Vol.1～12は休眠預金を活用した「北海道未来社会システム創造事業」の助成を受けて作成しました。

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」とは

179リレーションズでは、北海道各地の”「地域に関わる「入り口」”をつくります。ひとつひとつのまちや活動に注目し、住んでいる場所や世代を超えて誰もが対等な関係性を大切にしながら、若者をはじめとする次世代の担い手が育ち、変化に強い持続的な地域がつけられていくことを目指します。

特に以下の項目を重点項目として展開しています。

- ① 「関係人口」創出により、地域外の若手人材を地域の活動へ巻き込みます。
- ② 地域内の若者が、主体的に展開する様々な活動と連携します。
- ③ 関係人口創出WEBマガジン「179RELATIONS.net」から参加する若者のリアルな声をお届けします。

季刊誌「RELATIONS MAGAZINE」では、179RELATIONSの最新情報やホットな話題をお届けします。みなさんとの連携のきっかけになればと思いますので、気になる情報や活動がありましたらお気軽にお問合せください。



運営団体「NPO法人ezorock」とは



“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動をきっかけに2001年4月に設立されました。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイデアやパワーを届ける事業を展開。活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出しています。

2022年度実績
活動日数 471日 人数 のべ1,814人 地域 21市町村

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌

RELATIONS MAGAZINE!

PRODUCED BY ezorock

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX 011-562-0081

E-mail info@ezorock.org

WEB <https://www.ezorock.org/>

<https://www.facebook.com/ezorock/>

<https://lin.ee/ugUhj0g>

<https://twitter.com/ezorock/>

<https://179relations.net/>



<https://www.ezorock.org/>



は ま ま す e z o r o c k
石狩市浜益 × 関係人口
10年の歩み

関係人口と地域の関わりで生まれるもの

石狩市浜益 × ezorock 10年の歩み

石狩市浜益は、NPO法人ezorockの第二拠点。地域の方に受け入れていただき、少しずつ関わりを深めています。浜益での活動や関わりの中にも地域の外から地域に関わることへのヒントが隠されているのではないのでしょうか。浜益での活動や地域のみなさんとの交流について振り返ります。お住いの地域づくりに、関係人口の受入のきっかけに、実習や研究の題材などみなさん自身の活動

2018

冬のスノシューツアーが実現する。運営を地域内外の人材がそれぞれの強みや専門性を活かして行う。地域内外の力で新たな取り組みが生まれた年。



2009

“田舎ではたらき隊”の受入先として、都市部の若者が訪問。初めての関わり。

巨木ツアーと題して、浜益の観光名所である“千本なら”等を訪問。地域の方との交流はほとんどない。

2015



8月 福島児童受入ツアー



2月 イチイの木スノーシューツアー

浜益の大きな地域資源である樹齢1500年の巨木を活用したツアーを実施。冬の浜益に初めて大型バスが入る。以降、毎年2月に実施。

9月 大雨災害復旧ボランティア

浜益区内で大雨災害が発生。浜益に関わっていた若者の中から支援の声があがり、現地のお手伝いへ。

8月 福島児童受入ツアー

福島の子どもの受入を地域の協力のもと実施。地域の様々な業種の方がそれぞれの強みを活かしながら関わる「浜益版まちたんけん」が誕生。

2016

子どもの自然体験のフィールドとして地域の方と繋がりが生まれ始める。何度も通いながら、存在を知ってもらう時期。



2019

ついに浜益に関係人口の活動拠点を構える。宿泊を伴う活動がより気軽に行えるようになり、訪問人数が増えると共に地域の方に教えていただくことや助けていただくことがとても増えた。
(活動39日・参加のべ116名)



2017

子どもの自然体験のフィールドとして資源調査や地域の方との打ち合わせを重ね、徐々に地域の顔が見えてくる。地域外からの依頼、若者のチャレンジを地域の方に受け入れていただきながら関係をつくっていった年。



遊休施設を活用した拠点を整備。宿泊・滞在拠点ができただことで活動の幅が大幅にアップ。
旧助役宅借り受け決定・「はまますベース」として整備

7月

5月

浜益ご縁米プロジェクト

新型コロナウイルス蔓延に対して、浜益のお米1tを500人の若者へ送る事業を実施。いざという時には地域との繋がりが力になることを実感。



6月

きむら果樹園お手伝い

地域の出面さんに混ざって繁忙期のお手伝いを行う。滞在拠点ができただからこそ実施できるようになった活動のひとつ。
(以降、毎年実施)



はまますベース水回り改修

9月

若者の中から地域おこし協力隊着任

おためし地域おこし協力隊プログラム
(以降、毎年実施)

10月

2020

拠点ができたことで地域内の人手不足の現場へのお声がけいただく機会が増え、果樹園繁忙期のお手伝いなどで若者が浜益へ通うようになる。その中から地域おこし協力隊として移住する若者が出現する。
(活動84日・参加のべ268名)



4月

ワーケーション実証事業開始

石狩市、民間企業、当団体の三者連携でコロナ禍の実証事業が開始。遊休公共施設の活用の検討や若者以外の層へのアプローチが始まる。

6月

集落の教科書制作開始

地域のよいところもそうでないところも掲載する「集落の教科書」の制作を開始。浜益の中学生～70代まで様々な方へインタビューを行なう等地域への理解を深めるきっかけになった。

北海道開発局・栗山町視察受入

4月 集落の教科書完成



4月 若者の中から地域おこし協力隊ふたり目が着任

6月 浜益夜学実施

浜益内外の人が一緒に学ぶ。

8月

雪解けのさくらんぼ販売開始

活用しきれていなかったさくらんぼの商品化を行い、販売を始める。関係人口で人手を補うことでできることが増えた。



2024

浜益での活動を振り返ると、「地域外の子ども・若者の体験フィールドとして外からの依頼を受けていただく」から、徐々に顔と名前を覚えてもらい、「地域のお困りごとを教えてもらうようになる」という時期があり、お互いの理解が深まってからようやく「協働」できるようになってきたことがよく分かります。たくさんの若者たちが浜益へ“通い”、地域のみなさんに迎え入れていただいて、少しずつできた関係です。ここ数年でようやく形になったこともあります。これからの浜益での活動についてもみなさんにお届けしたいと同時に、ぜひみなさんも浜益を感じ来てみてください。

